

第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成26年9月26日(金)6校時
児 童 3年 男10名 女14名 計24名
指導者 触 沢 広 乃

1 単元名 場面のうつりかわりをとらえて、『思いのとびら』に表そう

教材名 ちいちゃんのかげおくり

2 単元を貫く言語活動の特徴

本単元を通して児童には、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む力(読む)を身に付けさせるとともに、目的に応じて文章などを引用したり要約したりする力(読エ)を確実に身に付けさせたい。そのために、「場面のうつりかわりをとらえて、一番心にのこった思いを表そう」という言語活動を単元を貫いて位置付けた。

物語を読むと、感想が生まれる。場面の移り変わりを正確にとらえることによって、「自分が悲しいと思ったのは、〇〇がこうなったからだ」というように自分の思いの根拠をもつことができる。その際、場面と場面を関係付けて読むことにより、登場人物の気持ちの変化や情景についても想像を深めることができる。また、一番心に残った思いをまとめる際に文章の引用をすることによって、自分にとっての大事な事柄や思いの根拠となる文章、表現の細かな点に注意して読む力を付けることができる。

3 単元について

(1) 児童について

児童は、2年「お手紙」において、場面の様子や登場人物の行動を読み取り、ペープサート劇を演じる学習を行った。また3年上「海をかつとばせ」では、登場人物と自分を比べて読み、感想をまとめる学習を行った。これまでの物語文の学習を通して、児童は話の大体をとらえ、登場人物の気持ちの変化を想像したり、自分と比較したりしながら読む力が付いてきている。個々の視点によって感想をもつこともできるようになってきた。しかし、例えば感想を書く際に、自分にとって一番心に残った叙述を主体的にとらえることや、場面と場面とを関係付けて読む力は十分とは言えず、根拠が不明確なまま叙述を長々と抜き出してしまったり、特定の場面の登場人物の行動のみからとらえてしまったりするといった実態がある。

そこで本単元での学習を通して、自分にとって強く心がひかれた部分を焦点化してとらえる力や、必要に応じて全体を読んだり部分的に読んだりすることのできる力を伸ばしていきたい。

(2) 単元について

本教材は児童が初めて出会う戦争教材である。家族でした「かげおくり」、ちいちゃんがたった一人でした「かげおくり」、二つのかげおくりの情景を思い浮かべながら、その間にうつりかわっていく場面の様子について考えさせる。その中で生まれた思いにじっくりと向き合わせ、思いを表すのにぴったりの言葉を探す手立ても組んでいく。

本単元では戦争や平和をテーマに並行読書を取り入れ、戦争がただ単純に「悲しい」「いけないものだ」というとらえになることのないよう、想像を深めていく。そして単元のゴールでは、並行読書している本について本教材での読みを活用したり読み比べたりしながら、一番心に残った思いを表せるようにする。

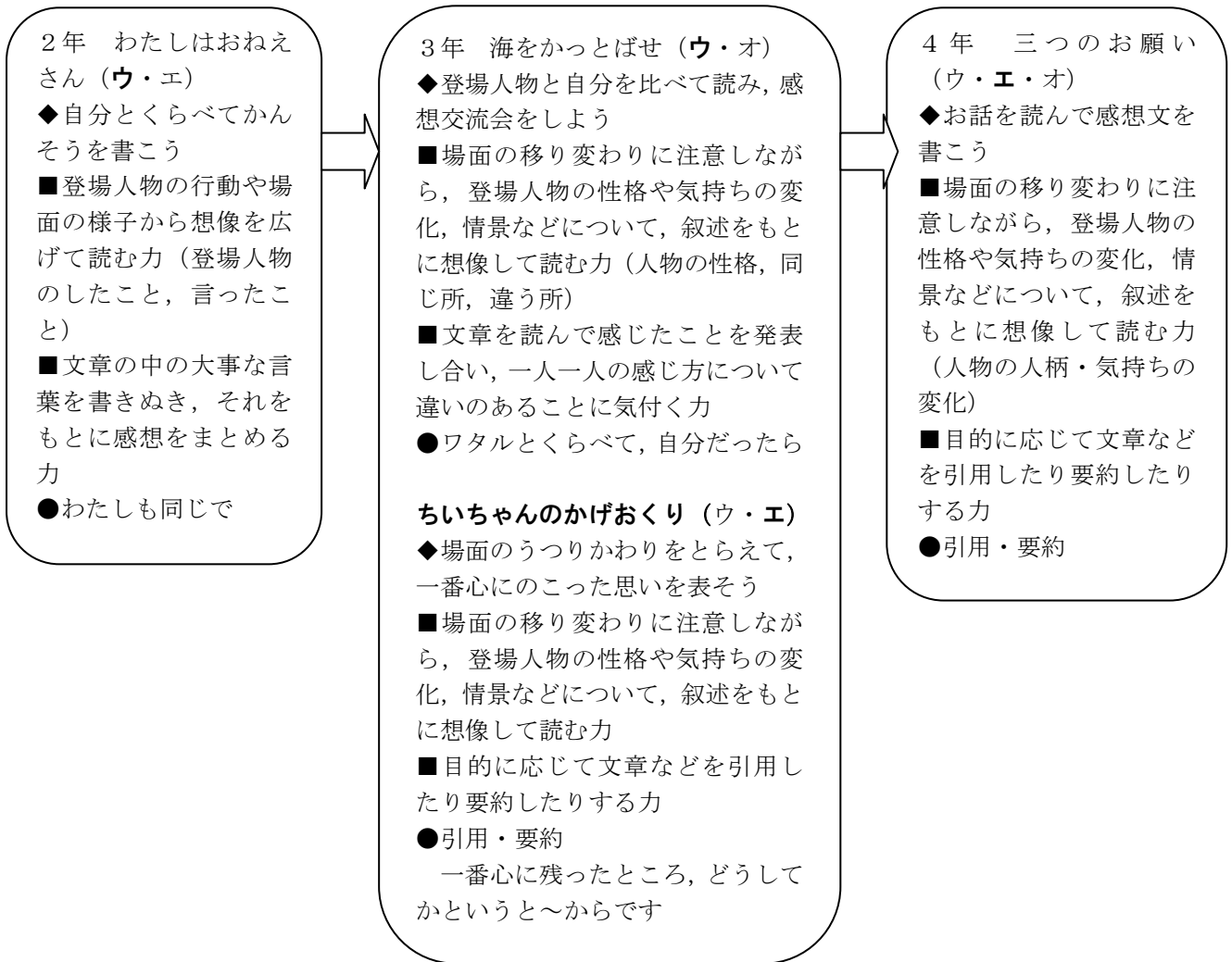
(3) 指導にあたって

本単元の指導にあたって、次のような点に留意していきたい。

- ①単元の最初にブックトークを行い、「戦争と平和」をテーマに様々な物語を紹介する。朝読書の時間などを活用して読み進め、マイブックを選び個々に読み深めていく。本は6種類程度に限定し、感想を互いに交流するために同じ本を選んだ同士でグループをつくる。
- ②単元のゴールでは、マイブックで「思いのとびら」を作る。教師のモデルを提示し、「物語を読んで生まれた思いを残す」ということを価値付ける。
- ③単元の学習計画を掲示し、ゴールに向かっていくことを意識させる。
- ④ゴールに向けて学習を積み重ねるごとに、マイブックへの思いを醸成していくように展開する。

(4) 本單元にかかわる言語活動系統表(感想をまとめる)

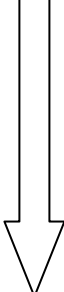
◆単元名 ■付きたい力(言語活動の構成要素, 読みの観点) ●大切な用語・使わせたい言葉



4 単元の学習指導目標及び評価規準

	学習指導目標	評価規準
関意態	○言葉や表現に着目して読み, 進んで感想を書こうとする。	○言葉や表現に着目して読み, 進んで感想を書こうとしている。
能力	◎感想をまとめるために, 自分が一番心に残った文を引用することができる。(読エ) ○場面の移り変わりに注意し, それぞれの場面の様子を想像しながら読むことができる。(読ウ)	◎自分が一番心に残った分を引用し, 選んだ根拠と自分の思いをまとめている。 ○自分の感想の基となる場面や登場人物の描写をとらえて読んでいます。
知理技	○文章中で使われている表現に注目し, 表現するための語句を増やすことができる。(伝言イー(オ))	○文章中で使われている表現に注目し, 表現するための語句を選んで使っている。

5 単元の指導計画と評価規準 12 時間

	主な学習活動	ゴールへの 並行活動	評価規準
第一 次 (2)	1 「戦争と平和」をテーマにブックトークを行い、 テーマに対する感想をもつ。 2 「思いのとびら」に表す要素を知り、学習計画 を立てる。	ブックトー クを聞き、 興味のある 本を選ぶ。	【関】話に興味をもってブック トークや範読を聞き、感想をも っている。(発言・ノート・観 察)
第二 次 (7)	3 「ちいちゃんのかげおくり」を読み、感想をも つ。物語にぴったりの台紙の色を選ぶ。 4 物語の中で変わっていくものをとらえる。 5 かげおくりの変化について考える。□, □ 6 かげおくりの変化の間に何があったのかとらえ る。□, □ 7 場面の移り変わりを確かめながら全体を読み直 す。□~□, □ 8 一番心に残った叙述を引用して、心に残った わけや自分の思いをまとめる。(本時) (引用した部分, その根拠, 自分の思い) 9 自分の思いを確かめながら清書し、違うグルー プで交流する。	心に残った 部分に付箋 をつけなが ら並行読書 を進める。 	【読】情景描写や会話、心情表 現に着目し、関連付けて読んで いる。(発言・ノート・観察) 【読】考えたり想像したりした 理由を、叙述を基に説明してい る。(発言・ノート・観察) 【知理技】文章中で使われてい る表現に注目し、表現するため の語句を増やそうとしている。 (発言・ノート・観察) 【読】該当する本文を引用しな がら表現している。(発言・ノ ート・観察)
第三 次 (3)	10 マイブックを読み返し、心に残った部分を引用する。 11 一番心に残ったところを、根拠を明確にしなが ら引用をして 書き表す。 12 グループで読み合う。		【関】言葉や表現に着目して読 み、進んで感想を書こうとして いる。(発言・ノート・観察) 【読】該当する本文を引用しな がら表現している。(発言・ノ ート・観察)

6 本時の指導

(1) 本時の目標

「思いのとびら」に表すために、一番心に残った叙述を引用して、心に残ったわけや自分の思いをまとめることができる。(読エ)

(2) 授業改善のポイント

単元のゴールに向けて、本時は物語の全体を振り返りながら引用をして感想をまとめる。本時に書いたものを交流し、感想を深め、思いを見つめ直したり付け足したりして次時の清書へつなげていく。また、本時に書く視点が第三次のマイブックでの課題解決につながることも意識付ける。

① 考えをつなぐ(目的を明確にし、自分の学びや友達との学びのかかわりを国語科用語や語彙を活用して表現し合う活動の工夫)

自分の思いを表すのにぴったりの語彙を見付けるために、感想や様子を表す語彙を集めたカードを使用する。また同じ場所を引用した人同士でグループになり、書いたものを交流する。交流の視点は「なぜそこが心に残ったか(理由)」と設定し、同じ所を選んでも理由が違うことから自分の思いを深められるようにする。

② 学びをつなぐ(指導事項・言語活動の系統性、学びを生かす単元計画)

これまでの読みを振り返り、「かげおくり」「空」「家族」がどう変わってきたかを確認し、その中で自分が一番心に残った所を確認する。

(4) 評価規準

評価の方法	ノート
評価規準	【読エ】 一番心に残った叙述を引用して、心に残ったわけや自分の思いを登場人物の気持ちや自分の経験と結び付けて、感想をまとめている。
努力を要する児童への手立て	引用した部分について、どのように感じたのか語彙カードからぴったりの言葉を見付けさせる。なぜそのように感じたのか口頭で確認し、自分の言葉で書き表せるようにする。

(5) 板書計画

場面のうづりかわりをとらえて、「思いのとびら」に表そう

ちいちゃんのかげおくり あまんきみこ作

課題

一番心に残ったところとそのわけを交流し、「思いのとびら」に生かそう。

○思いのまとめ方

① 引用・・・『一番心にのこった所は、「くくく」』

② 理由・・・登場人物がどんな気持ちか
 ここで自分がどう思ったのか
 『どうしてかという』
 『そこで私は、くくくとかんじました。』

③ 比べる・・・『自分だったら』
 『もしも自分がそうだったら』

④ 同じような本を読んだことがある
 『○○の本では、・・・』

○交流

- ・友だちは、選んだ理由がどうか
- ・友だちは、そこでどんな風に思ったのか

○付け足し

友だちの思いを聞いて・・・

へえ、なるほど、たしかにそうだなあ。

なるほどな、でもやっぱり自分はいこう思う。